

農商工連携の推進と新商品づくりに向けた現地研修会の報告

<平成30年10月10日(水)：栃木県食品産業協会>

今回の現地研修会は、地域農産物の生産拡大や高付加価値化などを進めて経営の発展につなげている先進事例を調査し、新商品づくりや食品関連産業の振興に役立てる目的で実施しました。

○有限会社 ワールドファーム [茨城県つくば市谷田部]

野菜の生産から加工・販売を行う会社として平成12年に設立。キャベツ・ほうれん草・小松菜等を自社農場で生産し、年間通して農産物を安定供給できる体制を構築している。

農産物の周年供給体制の整備及び野菜生産農場の拡大の取組、カット加工野菜、冷凍加工野菜の生産・販売状況、安全安心な商品づくりへの対応などを視察しました。

<写真：キャベツ栽培（説明、圃場）、キャベツ加工（芯取り、刻み）、意見交換>



○新ひたち野農業協同組合 農産物直売所「大地のめぐみ」〔茨城県石岡市南台〕

農協の各種事業を展開しながら農業振興の一環として3箇所の農産物直売所を運営している。

平成23年に「新設の直売所で地産地消を推進！小麦新品種（ゆめかおり）の普及と米粉加工品の製造・販売」で6次産業化総合化事業計画の認定を受けた。

農産物の生産・販売の状況と特徴、地元農産物を活用した商品づくりの動向及び6次産業化による成果と課題、地産地消の推進と地域活性化の取り組みなどを視察しました。

<写真：大地のめぐみ外観、意見交換、パン店、直売所店内>

